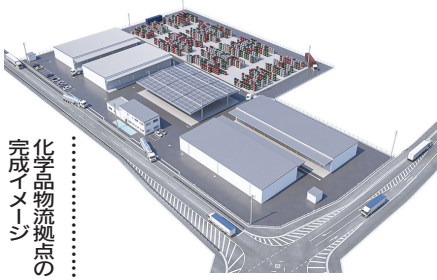


三重に化学品物流拠点

上野ロジケム

開業 28年1月 MWS など設置



化学品物流拠点の完成イメージ

上野ロジケムは、中部地区に化学品物流拠点を設ける。名古屋港と四日市港のほぼ中間に位置する木曾岬新輪工業団地（三重県）で、危険物倉庫4棟のほか液体化学品の移し替えができるマルチワークステーション（MWS）や一般取扱所、約3万本のドラム缶が貯蔵できる屋外蔵置所を2028年1月に開業する。さらに、30年度までに関西で化学品物流拠点を新設する計画があり、上野グループの化学品商社となるオクサリスケミカルズ（東京都千代田区、OXC）によるケミカルプラットフォーム構想の実現に向け弾みをつける。

上野ロジケムは、上野一立で、内航船による化学グループのケミカル事業、品の輸送事業のほか19年タンクローリーによる陸

に参入して以降、ケミカル物流に力を入れておりタンクローリーによる陸

上輸送、油槽所の運営を手がける。ISOタンクコンテナ事業ではスイスのパーチ社との合弁会社「上野パーチ・ロジスティクス・ソリューション」を23年に設立している。新たに化学品物流拠点を設ける木曾岬新輪工業団地は、タンクコンテナデポを開業した名港海運や、危険物倉庫6棟が27年3月に竣工する日本トランスシテイなどケミカル物流会社が相次ぎ拠点を構えており、名古屋港の九号地区に次ぐ新たな工業・港湾エリアとして注目されている。

上野グループホールデ

対応できるワンストップ物流拠点を設ける構想を以前から練っていた。同社は、敷地面積約2万5000平方メートルの土地を24年7月に取得。今年5月に着工し、建物は27年11月に完成する見込み。輸出入貨物に対応できるように通関業務も行う。

危険物倉庫4棟（各約1000平方メートル）には移動式ラックを設けるほか、敷地中央部にタンクローリー専用2レーンを作り、ドラム缶やIBC（中型容器）からローリーへ移液が可能なMWS（450平方メートル）および荷捌きができる一般取扱部委託や高付加価値品に

併設する。需要次第ではローリーからドラム缶などに小分けできる機能を付与することもある（同社とする。屋外蔵置所（約5000平方メートル）のほか同工業団地には少ないトラックスケールを導入する。

また、危険物倉庫の上には太陽光発電パネルおよび蓄電池設備を設ける計画だ。将来発生する可能性が指摘される南海トラフ地震などのBCP（事業継続計画）対策になるほか、台風などに備え建物には杭打ちを施す。投資額の一部は経済産業省の「中堅・中小企業の質上げに向けた省力化等の大規模成長投資補

助金」を充てる。上野ロジケムは設立以来、売上高を拡大させている。タンクローリーによる陸上輸送を手がける上野輸送（川崎市）のケミカルローリーの営業部門や上野マリタイム・シヤパン（三重県四日市市）から油槽所などを2022年からグループ再編で手中に収めており、中部に自社の化学品物流拠点を設けることでOXCなどシンナジを發揮できる体制を整え、より事業収益を向上させる。また阪神港湾エリアなどに拠点を設けて、東名阪で化学品物流ができる体制を構築し、30年度までに売上高150億円以上を目指す。